

視聴覚教育

月報

No. 15

発行日 12月1日
 発行 岡崎市小中学校
 編集 視聴覚教育協会
 調査部
 印刷 岡崎 明大寺
 株式会社 穴版社
 TEL. 340.2592

第十一回学校視覚教育

全国大会に参加して

南中学校 岩瀬 茂

十一月五日から十日まで群馬県前橋市において第十一回学校視覚教育全国大会が開催された。私は日頃是非このような大会に出席し全国の視覚教育の精鋭と話し合つてみたいと思つていたことでもあり今回の参加はこの上なく嬉しかった。

第一日は午前中前橋市の高校一、中学校二、小学校三校の研究授業及び研究発表会が行われた。私は市立第二中学校の会場へ出席した。

午後一時から群馬会館でこの大会の開会式が挙行された。会館は薄曇りで凡そ二千人位入つていたろうか。

最初、東京都教育庁指導主事の高教審大郎先生の司会によるオリエンテーションが行われた。題は「学校視聴覚教育の歩みと問題点」であつた。

この中で文部省の新設課である視聴覚教育課長井内慶次郎先生から来年度発行予定の「視聴覚教材の利用」という本に関する話題が提供され又名氏から第二日の分科会参加への示唆が与えられた。この後「これからの視聴覚教育」と題して東京工大教授工博、星野澄先生の講演があつた。私にとつて第二日の分科会も勿論勉強になつたが結論的に言うところの講演と第三日の「道徳教育と視聴教育」という全体研究が非常によかつたと思つた。

講演内容は大体次のようなものである。社会の進歩に物心両面の進歩が考えられる。私は(講演者)科学者である立場においても特に物質文明の進歩を謳歌したい。視聴覚教材も進歩したが、今後益々進歩して行く事と思つし又とんどん進歩

させなければならぬ。その場合現場の教師より積極的にそれを利用しその難点を発見し業者に要求しなければならぬ。私は今日までの日本の教育が「理解と記憶」に終始したように思う。勿論これらも重要な要素にはちがひないが、今日特に要求されるものは創造の教育であると思ふ。私たちの周囲の文明の成果を見るに殆んどが外国でつ

なるものがどれ程あるかと問いたい。等を主張され、その他教育には教師の精熟やインプレッションな授業や生徒のセンスを発見し、センスをよびおこす教育に力を入れてもらいたいと述べられた。

第二日は午前中分科研究会が開かれた。学習指導を中心とするもので十三の部に分かれていた。私は中学校社会科部会に出席した。茨城県日立市立駒王中学校と群馬大学付中の先生によつて提案がなされた。提案は大体この研究会でも問題になつて居る様なことで大して目新しい事はなかつた。例えば考える社会科を指



導するに視覚教材を如何につかうかと市販されて居る視覚教材の欠点を如何に補足するかとか、自作スライド映画の利用方法、態度とかその他教科書のさし絵等の利用方法等が上げられた。指導助言者の佐賀大学の上野辰美先生は結論づけ、映画を利用する際によくその映画の

で第三者の立場に立つて十分な目標をつかみ……即ち何のためにつかうか……それに応じた利用をすることだ。又一面映画の総合的利用や郷土の生活との結びつき、歴史において現代的な流れに於いて利用するよ

うに主張しておられた。午後は研究会の中で運営部会が九つの部に分かれて開かれた。私は教育計画と学校経営という部門に参加した。この中で特に新潟県の北魚沼郡堀の内町立堀之内小学校の桑原先生の発表が理論もさることながら実践における問題点を經驗から力説されて印象が深かつた。勿論設

備資金や人的困難の問題も上げられたが中でも地域の共同組織（ライブラリー）との連携いを強調しておられた様に思う。

第三日は初日の群馬会館で全体研究、「道徳教育と視聴覚教育」が話し合われた。これはNETのキネマを利用したもので「僕は走らない」が内容であった。

この話し合の頂点は結局道徳教育に映画を使用する際、映画をそのまま我々の生活に再現しようとするのではなく、各校独自の環境と条件により消化すること

が必要であり、特に映画を見るに際しても登場人物の心の動きなやみの変化を重視する必要があるということであった。

この後続いて海後宗臣先生の「新教育課程と視聴覚教育と應ずる講演があったが紙数も限られ、又内容もそう目立ったこともなかったのでこれを省略します。

これをまとめて反省するに、私は岡崎の視聴覚ライブラリーは中々優秀なものであり、各点で非常に恵まれていることを確認した次第です。

実践記録

映画「奈良・京都」

三巻・三〇分

愛宕小学校 川辺 久男

五荘国語の十一月教材に名文で書かれた紀行文が掲載されている。漢字もかなり使われた長文、題して、古都の秋、奈良、京都、である。

この映画は利用によつては、この国語教材を理解させるにはもつてよいフィルムである。しかも国語の文章に對り、画面も移動し、心ゆくまでに日本の古都を察しませてくれる。こんなことがあつてよく利用させてもらつた。

○事前の指導

国語教材理解のため次のようなことに

気をつけてみるよう話し合つた。

- ・奈良のまちの今と昔の位置の違い。
- ・秋風や田いもなしに興福寺」とある子規の句の情景はみられるだろうか。
- ・春日近所という神社建築の形式。
- ・東大寺と南大門、そして仁王像。
- ・中国から伝えられた新しい建築法。
- ・運慶、快慶の名作に目をむける。
- ・三月堂の屋根組みと中の仏像群。
- ・正倉院の校舎造りと宝物の数々。
- ・じつしりとした唐招提寺の金堂と珍らしい薬師寺の三尊塔の姿。

。今はありし日の平城京の位置を示す石標

。当時の大官人がよんだ古歌

「あおによし奈良の都はさく花の姿は、どんなところにしのばれるだろうか、気をつけてみることに。

京都にうつつては

。奈良の都よりはるかに規模の大きい京都のまちの姿。

。民家の屋根より、ぐっと背のびしたあちこちの神社仏閣の屋根。ここにも京都の京都らしさがしのばれる。

。東山の山すそにある高台寺と、桃山美術品の代表作はどんなであろうか。

。智恵院や清水寺の姿。

。北の山手にある草深い寂光院や、三ノ院と附近にみられる大原女の姿。

。平安時代の代表宇治の平等院鳳凰堂。

。高雄山や神護寺

。名園金閣寺、銀閣寺、そして大徳寺や花園の妙心寺、龍安寺の哲学的な配置といわれる石庭。

。平安神宮の時代祭や、加茂川の祥瑞染の風景など。

いづれも訪れたことのない奈良、京都児童にはやや遠慮い古典的な固有名詞

の連続する国語教材であるから、しっかり目をすえてみることを約束した。

○映写中の指導

。わかりにくい土地や建築物についての補足説明。

。児童の質問に對する説明。

○事後の指導 話し合い

自分の感じたことについての意見発表をする。

。ずいぶん大きな古い寺がたくさんあるが、どうしてこんなに多いのだろうか。

。奈良公園の鹿はほんとにあんなによく人になれてるのだろうか。

。鹿の角を切る時のようすがよく分つた。

。正倉院の宝物はすばらしいが色がついていないので美しさがよくわからなかった。

。古い昔あんなにぎやかだった右京が今はすっかりさびれたのはなぜだろうか。

。京都の大文字山の火祭はすばらしいが、二條城の中が美しかった。

。庭園はあまりよくわからない。

。桂離宮は立派だといわれるが、そのよさがぼくにちはわからない。



12月の教材映画

以上のような種々様々な意見や質問が繰出したが、やっぱり児童たちの目には解的な美しさより、動的なものに目がうつり、神社仏閣のよさは理解されにくいようであった。

しかし文字を通しての理解と共に画面を通しての説明をみることにより、一その文章の理解把握が容易になったことをうれしく思った。

奈良、京都には日本の歴史を語る、すぐれた日本文化のあとがこんなにも残っている。わたしたちは新しい歴史をつくりあげていくのですが、その時、わたしたちの祖先のしてきた仕事、残した遺産についても絶えず、ふり返ってみるためこんな教材映画もよい学習になったことを感服しています。

【小学校】
 ① 火車をなくする仕組 小一二年社会ニ分
 ② 火車の恐ろしさを知らせ、消防署の働きが具体的にわかりやすく描き写されていて、火車をなくすための計画、組織などについてしらせるのによい。

③ 鉄道の発達と町のうつりかわり 小三四五社会ニ分
 ④ 乗り物の進歩により町がどのように変化し、人々の生活がどのようにかわってきにかについて、鉄道の敷かれていない前と、敷かれたあとを比較、説明されて

いる。
 ⑤ 鉄道電化 小四五社会ニ分

⑥ 陸上交通の発達 ⑦ 鉄道が敷設されるのみでなく、さらに電化されることにより交通機関として有利であるから、鉄道が電化されるようすと電化の前後の諸条件について比較することが出来る。

⑧ 日本のデนมール農場

小五五社会ニ分

⑨ 鶴と鴛柱

小四四理科ニ分

⑩ 鶴や鴛柱の現像に対して関心を高め、実験観察の手引とすることができ、鶴と鴛柱の成因状態などを描いている。

⑪ せんたく 小五五理科ニ分
 せんたくを科学的に解明したもので、汚れを落とす原理や合理的なせんたく法について述べられている。

⑫ 木のきもの・石のきもの 小五五理科ニ分

⑬ 着物の変遷と木材を原料とした、レーヨン・スフの製造工程、石灰や石灰を原料としたビニロンの製法を紹介したもので

⑭ なわとび 小三三体育ニ分

⑮ 楽しいオーケストラ 小五五音楽ニ分
 拍子の種類を名曲の演奏により動画を利用して解説している。

⑯ 「中学用」 社会科として
 「一任生」 日本地理の整理としておくれればながら

⑰ 「新しい土地」を始めてとして日本地理大塚の各映画を写ることもよいと思ふ。
 ⑱ 尚「地図」「地図と地形」を見せて、地形図の作り方をここで学ぶのもよいと思ふ。
 「二任生」
 「中尊寺」によって藤原三代の教条

の姿を見せ、今から約八〇〇年前武士社会への移り変りの一端を話し合ひ、前号に出ていた、「武士のくらし」(内容は徳川期のもので時代的にくいちがいがあるが)を見てその社会での支配階級の姿を参考にするのも一策だと思ふ。

⑲ 「鎌倉美術」望町美術があるよのだがここで武士社会をバックにして形成された美術の数々を見よう、その時代の特色を把握することが出来る。やがてこの後では「桂離宮」「姫路城」「城下町」「昔の農民」「飛騨」「宿場町」と続々使用出来るフィルムがある。

「三年生」

⑳ 「通貨」「お金と私たち」と経済のフィルムを利用されたと思ふが、この辺では「社会保障」のフィルムはどうであるか、尚家庭生活を学ぶにあたり社会の「新しい嫁」などはよい参考になり話し合いの場をつくらう。

理科として

㉑ 一任生としては「動く地球」「蜜蜂」「動物の冬眠」「こん虫の変態」「ありの世界」「太陽系」などが利用出来、二任生としては「採光と通風」「せんたく」「木のきもの石のきもの」など、三年生では「自動車はこうして動く」「結晶」などがある。

本年度第四回 巡回映画

チビ・テカ物語 全五巻 劇映画
こぶとりぢいさん 一巻 漫画映画
家庭クイズ No.5 一巻 ニュース

制作 民芸映画社
教育映画配給 社

監督 若杉 光夫

第二回カナタ・パン

グーパー映画祭 参加作品 児童映画最高賞を獲得

(製作意図)

小とつちよで気の弱いテカ三君が、強気でがんばりやのチビ健君の努力で次第に強くなっていく過程をえがきながら、明るい友情物語としたし。

(ものがたり)

スローモーションで気がいいのはいいが弱気で、何事もやってみないうちから諦める雄三と、チビでやせっぽちのくげに鼻っ柱の強い負けん気の健吉とは、教室で

健吉の隣が空席だった時からの縁である。健吉一人をたよりにしてくる雄三に、始は「お前一人で帰れったら」といってりした健吉だったが、気がよわくてテフなばかりに遊びにも入ってこれない雄三を見ると、健吉はいつのまにかおぼてやるようになった。おかげで下校の道で豚みたいだとおぼやした中学生にむしやぶりついて、なぐられたり、馬とびの馬になり健吉はつぶされた。雄三を咎はテカ三とよぶ様になった。運動会の日、徒競走でどりだったテカ三も、チビ健との二人三脚、ムカテ競争言あんぶの障害競走では、二人のコンビが見物人の爆笑する中に最後の言あんぶ競走で同じような重さの相棒によたよたしてゐる連中を著々とぬいて、チビ・テカ組は一等賞の旗をにぎった。



もどった父親について急に工事場の宿舍にいくことになった。あくる朝それを知ったテカ三は泣いた。あこつた。さびしかったのだ。チビ健のいない肌をなでたりした。又気の弱いテカ三になった。しかし、チビ健から届いた手紙をよんだテカ三は、その最後にあった「大山君だつてやれば何でも出来るのに、やらぬのはいけない。」という言葉はテカ三を感心させ、力づけるのに十分であった。一辺だつてやつたことになかった体操の時間の竹棒のぼりをやりとけてみようと、チビ健の音がいつも聞えるような気がしてテカ三をほげましたからだ。五センチ、十センチ、じりじりとテカ三はのぼつていった。横木に手がかかる。テカ三は横木にまたがった。高いテカ三の頭の上には広い広い空がひろがつていた。「小松クーン、ありがとー」日本一の雄三の笑顔であった。バンクーバー国際映画祭に、チビ・テカ物語、最高賞を獲得 (敬配レポートより)

この映画祭には二万一千人以上のほる参加者があり、短篇映画のみでも出品数二百十四本にのぼった。そのうち八十余本が決選にのみ、最後の栄冠がチビ・テカ物語に輝いたのである。バンクーバー映画祭では、昨年も人形映画、ちびくろさんぼのとらじいじが児童映画最高賞を受賞して、二年連続の栄冠だつたわけである。チビ・テカ物語は、鼻っ柱の強いチビ健と弱気のテカ三との二少年の間に結ばれた友情をえがいたもので、少年たちの生活をいきいきと明朗に描写した作品として、つとに諸方から好評をえていたものである。今後の巡回映画について 第五回以後は第三学期早々に巡回を開始する予定です。未だ題名は決つていません。予定としては、小学校高学年向か中学生向のものを選定するつもりです。感想文について 巡回映画上映後、感想文等を生徒に書かせられた場合には、月報にのせたいと思えますからライブラリーまでお送り下さい。良い作品をお待ちしております。巡回映画についての御希望もお知らせ下さい。